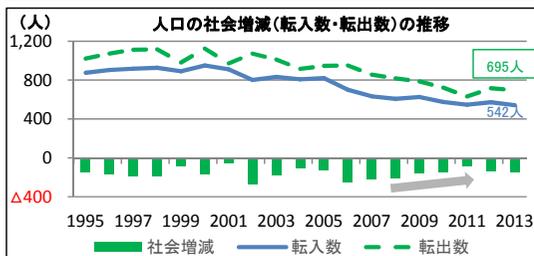
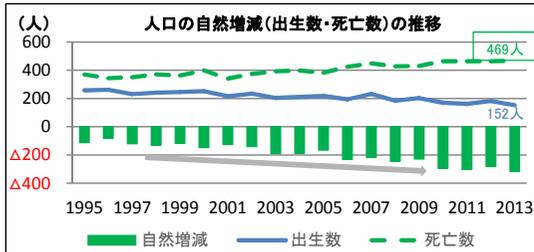


I 人口の現状分析

1 人口動向

(1) 時系列による動向

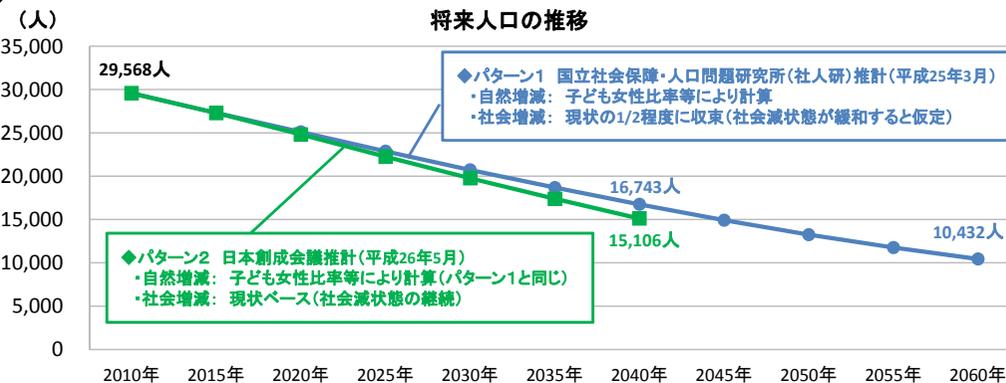
- 総人口**
 - ・観測期間を通じて減少傾向にあり、2015年以降も減少の見込み、2010年には29,568人
- 年齢3区分別人口**
 - ・年少人口(0~14歳)は減少傾向にあり、1990年に老年人口を下回り、それ以降も減少傾向
 - ・生産年齢人口(15歳~64歳)も減少傾向
 - ・老年人口(65歳以上)は2020年までは増加が見込まれるが、以降は減少の見込み
- 自然増減**
 - ・1995年以降、死亡数の増加、出生数の減少により自然減は拡大傾向
- 社会増減**
 - ・1995年以降、100人程度の転出超過が継続



(2) 人口移動分析

- 年齢階層別分析**
 - ・男性、女性ともに「15~19歳→20~24歳」の年齢階層で転出超過
- 市内定着率**
 - ・男性は増減しつつも減少傾向にあり、女性は安定的に推移

2 将来人口の推計



- 人口推計**
 - ・社人研推計(パターン1)をベースとした2040年の人口は16,743人
 - ・一方、社人研推計より厳しい仮定に基づく推計(日本創成会議:パターン2)では、2040年の人口は15,106人

- 自然増減・社会増減の影響度**
 - ・将来人口に対する自然増減と社会増減の影響の大きさを分析
 - どちらも一定程度であり、秋田県内の他市町村の多くと同じグループに所属

II 人口の将来展望

1 目指すべき将来の方向

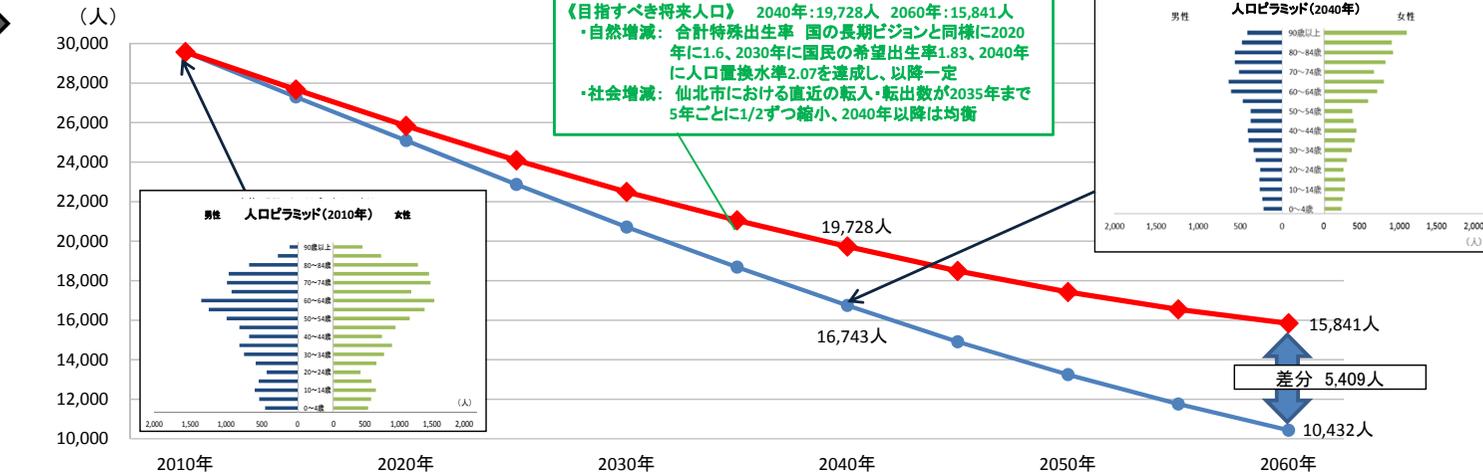
(1) 現状と課題

- 拡大する「自然減」**
 - ・結婚・出産に対する意識変化などによる未婚化、晩婚化の進行と、それに伴う出生率の低下
 - ・高齢化が進展し、高齢者が増加したことにより、死亡数が増加
- 続く「社会減」**
 - ・進学や就職を機に若年層が市外に転出
 - ・市外からのリターンは一定割合にとどまる
- 雇用の集中と高齢化**
 - ・全国平均と比較すると、「農業」に集中
 - ・「農業」の従業者が高齢化する一方、「医療・福祉」は、若年・壮年層の雇用を吸収

(2) 目指すべき将来の方向性

- 社会減の解消**
 - ・働く場所を創出し、市外への転出を抑制
 - ・地域の活力を生み出すために、高齢者を含む幅広い層の移住、定住の促進
- 自然減の抑制**
 - ・結婚、子育て支援による現状の出生率を維持・改善と、女性の雇用環境における改善を通じた自然増減の改善

2 人口の将来展望



- 目指すべき将来人口(2040年、2060年)**
 - 各種政策や事業が実施され、出生率が国の長期ビジョンと同様に2020年に1.6、2030年に国民の希望出生率である1.83、2040年に人口置換水準である2.07を達成し、以降は一定とした場合、社人研による推計値(パターン1)による16,743人(2040年)の見通しと比較して、2040年で19,728人、2060年では15,841人まで改善する見込み

※合計特殊出生率 一定の期間(1年間)の出生状況に着目し、その年における各年齢(15~49歳)の女性の出生率を合計したもの。 ※人口置換水準: 人口が長期的に維持される水準。現在の日本では2.07。